

311 ゼミナール 第6期 2024年度

避難所運営班 活動報告書

～授業実践と総合防災訓練から見る避難所運営について～



○メンバー（全13名）

4年 一瀬辰之介、松川凜香、吉村響華、和田穂乃香

2年 芦野陽南、遠藤胡羽、小向翔大、鈴木和香

増井美羽、村上陽亮

1年 小野寺夏実、根本蒼唯、村口万結

○目次

1. はじめに

2. 木町通小学校防災授業について

3. 青葉区総合防災訓練について

4. 総括

5. 今後の活動について

6. 一人ひとりの感想

1.はじめに

避難所運営班の活動の主な目的として、避難所運営マニュアルの作成に向けた視察や、避難所運営における実践的な学びを深めることがあり、今年度は、木町通小学校での防災授業や青葉区総合防災訓練への参加を主な活動として行った。

防災授業の実践では、仙台市立木町通小学校を訪問し、小学5年生に避難訓練についての授業を1日がかりで行った。仙台市立木町通小学校の地域連携コーディネーター「木の芽ねっと」の植村みちるさんから、3.11ゼミナールに防災授業の委託要請をいただいた。3.11ゼミから避難訓練グループと避難所運営グループが対応することとなり、協議を重ねた結果5年生を対象に5時間の授業を行うこととなった。

また、防災訓練や避難所運営の取り組みを行っている団体を仙台市内で調べたところ、毎年青葉区内の小学校を会場として「青葉区総合防災訓練」が開催されていることを知った。青葉区役所に問い合わせたところ、区民生活課の佐藤さんがゼミ生の視察を快く引き受けてくださったことで、今回の視察が叶った。ゼミ生は避難所運営の視察とともに、児童に向けた防災授業の視察・サポートもさせていただくことになった。

2.木町通小学校防災授業について

◎木町通小概要

仙台市地下鉄南北線北四番丁駅から徒歩6分の位置にある小学校。児童数は1年生から6年生まで合わせて518人(2023年度時点)。木町通小学校は過去に避難所運営訓練(2016)や学校地域合同防災訓練(2023)などを行っている。

今回は木町通小学校の地域連携コーディネーター「木の芽ねっと」の植村みちるさんの方から、武田先生宛に連絡をいただき、防災の授業を行わせていただくことになった。

どのような授業を行うか考える中で、避難所において大人だけでなく「子どもたちも力になることができる」ということに気づき、自分たちには何ができるかを考えさせたいと思った。

そのため、避難所の様子に理解を深めること、その理解に基づき自分たちにできることを考え、最後に児童にもできる活動として水の運搬をバケツリレーで実践することにした。



◎授業の概要

○1 時間目

1時間目は、避難所のイメージを全体で共有し、避難をした後に生活する避難所について考えようという目当てを立てた。→【指導案を末尾に掲載】

「どんな時に避難をするか」という問い合わせをしたところ、『家に住めなくなった時』や、『やばい時』という反応があり、「やばい時ってどんな時」とさらには問うと『命が危ないってなった時』という答えにたどり着いた。

2024年に起きた自然災害が頭に入

っている児童が多いという印象を受けた。避難所でのイメージについては、【自由がない】、【トラブルがある】【トイレに困る】というような反応があり、否定的なイメージを持っていることが分かった。

その後、避難所でのトラブルについて一人で考えた後、グループで考えさせた。

【プライバシー】、【障害者】、【高齢者】、【食糧不足】という言葉が多く出た。最後に片平町小学校の写真を提示すると、子どもたちは口々に『寒そう』、『暗い』、『電気がないときつい』というような反応を示し、自分たちで想像していた避難所と実際の避難所とのギャップを感じているようだった。

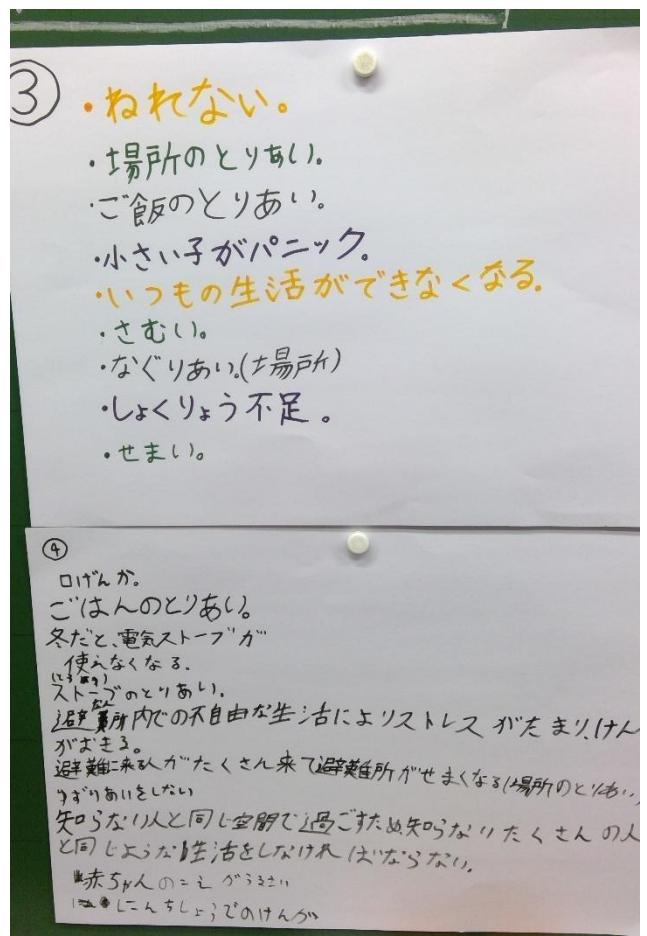
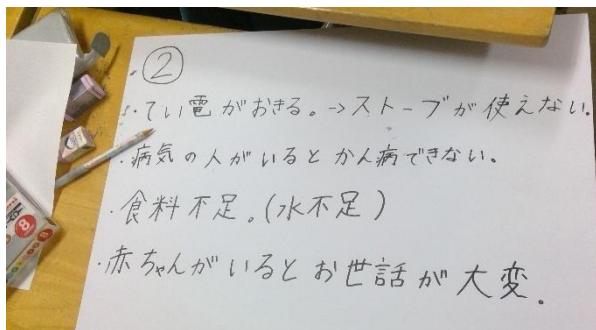


○2 時間目

2時間目は、1時間目で出たトラブルを解決するためには、どのような役割が必要かということについて考えさせた。

トラブルと対応しながらそれを解決する役割を書かせることで、前時を活かすことができた。

児童からは、【小さい子の面倒を見る】、【大人、子ども、その他の役割、ペット・赤ちゃんの4つの視点を持つ】、【食糧やボランティアの管理】、【水分、食料管理】、【イベントを行う】などの意見が出た。前時で水が大切という話をしたことを覚えている児童が多く、水に関する意見が多かった。その中で、飲料水と生活用水に分けていたり、しっかりと理解ができていると感じた。



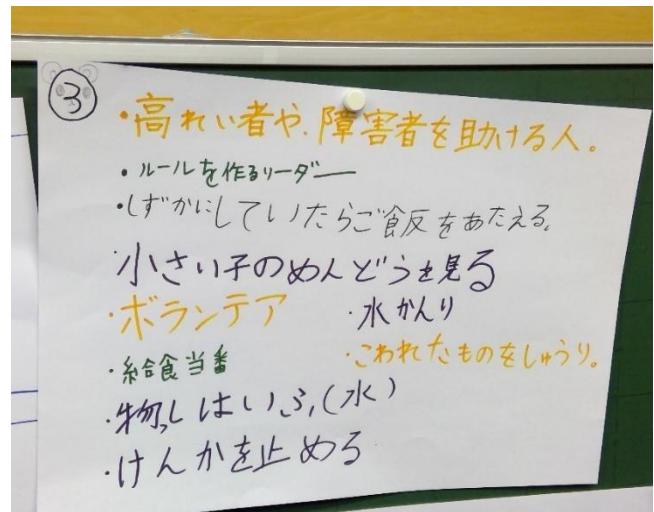
また、少しでも楽しく過ごせるようにするにはどうしたらよいかと考えているグループでは、【歌を歌う】や【子供新聞を発行する】という意見も出た。避難所での役割は大人の仕事と考えるのではなく、自分たちもできることをしようとしているグループが多くあり、児童の柔軟性や自主性を感じることができた。

○3時間目

3時間目は、2時間目で出た避難所での役割の中で、自分たちにできることについて考えさせた。考えさせる前に、避難所に避難をしている可能性がある人たちについて考えさせた。



「避難所には、健康で元気なその地域の人たちだけしかいないのかな」と問いかけたところ、『高齢者』、『妊婦』、『けが人』、『病気の人』という反応があった。さらに「そのちいきのひとだけ？」と問いかけると、『観光客』、『外国人』という反応があり、避難所のある地域をよく知っている人だけがいるわけではないということを全体に共有することができた。



自分たちでできることについては、【いつでもどこでも元気な挨拶】、【掃除】、【大人の手伝い】、【学校の案内】、【私たちが笑顔でいる】、【外国人への通訳】という意見が出た。最後に、水を運ぶ男の子の画像を提示し、子どもにもできることがたくさんあり、それを見つける能力を日常生活の中で育んでほしいと伝えた。

○4 時間目

4時間目は、水を運ぶことを体験させるために体育館に移動してバケツリレーを行った。検討段階では、震災時に実際にあった子どもたちの活躍事例を基に、プールの水を校庭にあるトイレに運ぶリレーを予定していたが、当日は校内で来客が多い研究集会があり、安全を期して体育館で実施することになった。

体育館のステージをプールに見立て、そこにペットボトルを40本近く並べて、そのペットボトルをバケツに入れて、体育館後方にあるトイレに水を運ぶという設定にした。



最初、二つのチームに分け、競争の方式をとったが子どもたちが順位に夢中になってしまい、バケツリレーが成り立たなくなってしまった。そのため、2回目は全員で協力して水をこぼさないように丁寧にバケツリレーをさせることにした。全て運び終わるころにはかなり疲れている様子だったが、達成感を感じていたように見えた。

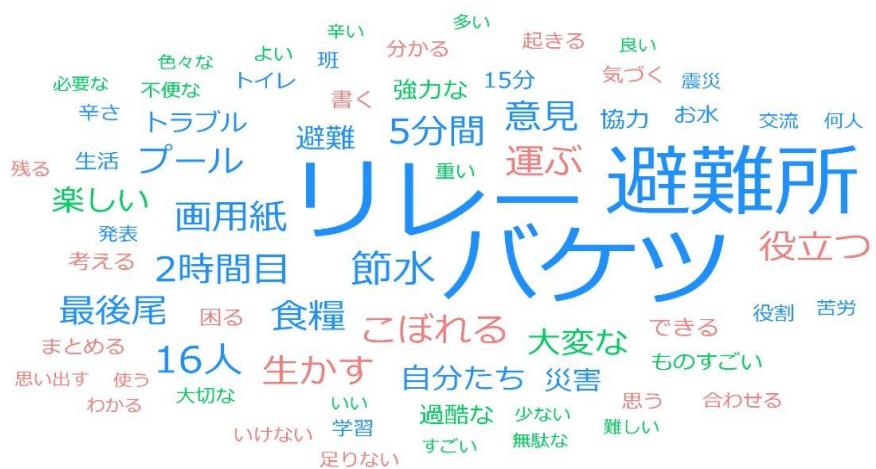


バケツリレーの後、「避難所ではこれを一日に何回行わな
いといけないか」と問いかけたところ『一日何回も！』と
いう発言があった。

できるだけ体力を消耗させずに沢山の水を運ぶための方法を考えていく必要があると伝え
た。さらに避難所で快適に過ごすためには自分で考えて行動することが大切。自分で考
えて行動する力は、日ごろの学校生活の中で鍛えることができるので、これから自分には何
ができるのか考えながら生活をしてみてほしいと伝え、授業を締めた。

◎児童の感想

児童には終了後に感想を書いてもらった。そのデータをテキストマイニングを使って分
析すると以下のようになった。



印象に残った言葉としては「自分たち」「役立つ」「できる」という言葉だ。この授業は児童に震災などの災害時に自分たちにはどんなことができるかということを考えて欲しいということがあった。

避難所で起こるトラブルから自分たちができるることを考える授業をしたことで、災害時に自分たちでもできることがたくさんあることに気付いてくれたのではないだろうか。また、「大変な」「過酷な」「不便な」など活動をしてみて当時の様子を感じるような言葉もあった。震災を体験していない児童だが、当時の苦労についても考えてくれたのではないだろうか。

感想の中で目立つのは、やはり児童が自ら体験したバケツリレーについてだ。児童には室内にはなったが水をトイレに運ぶ想定で体験をしてもらった。教室でトイレを流すためには6L程度の水が必要なことを伝えてからの体験だったため、児童たちは15分かけて行ったバケツリレーで16人分の水しか運べなかったと驚いたようだった。実際に数字を活動の中で体験できたのはいい手立てだったのではないかと思う。

◎考察と総括

【授業のよかった点と改善点】(よかった点を○、改善点を●であらわす)

○授業全体を通して、児童が授業を聞き、自分事として捉え、避難所にはどんな困難があり、どんな役割が必要で、自分にできることは何か、自分から考えることができた有意義な時間であった。

○笑顔でいる、イベントをして楽しませるなど、大学生の想定を超えた意見を引き出すことができた。

●バケツリレーの目的をさらに強調し、水を運ぶ意味を考えさせられるとよかったです。



●トイレでは1回に6Lもの水を使うこと、避難所では何人もの人がトイレを利用することからバケツリレーを何度も行うことが必要である。そこの意識を児童に持たせるためには、競争ではなく、疲れずに長く行うためにどうするかを考えてもらえるとよかったです。

●今回はペットボトルに水を入れてリレーを行ったが、本来であればバケツに直接水を入れるために、こぼれないようにするという意識を持たせる必要があった。

【総括】

今回大きな災害が起きて、避難所での生活を余儀なくされたという設定のもと、「避難所でのトラブル」「避難所での役割」「自分たち（子ども達）でも担えそうな役割」の3点について子どもたちに考えさせた。

子どもたちも大学生も避難所については、マイナスなイメージしか持っていないなかつたが、当時実際に避難所に避難をしていた学校支援地域本部のスーパーバイザーの方から「避難所は大変なことも多かったが、子どもたちは非日常として友達のところに遊びに行ったりととても楽しそうに過ごしていた。悪いことばかりではなかった。」と話してくださいました。

実際に経験をしていない人たちにとっては、ニュース等で見るマイナスなイメージがしみついてしまっているが、実際にそこで過ごしてみるといいこともあるのかもしれない多角的な視点を持つことの重要さに気づかされた。

避難所でのトラブルを考える際、想像がつかず苦戦している子どもが数人いたが、それ以降の質問に行くにつれて苦戦していた子どもも活動に積極的に関わっている姿が見られた。授業の進行を子どもたちに委ねる授業スタイルだったため、正直上手く行くか不安な部分も多かったが、メンバーで想像をしていたよりも幅広い意見が沢山出てきて、驚かされることも多かった。子ども達自身が自分たちの役割（大人を元気づける等）をしっかりと理解しているという点にも驚いた。

最後に行ったバケツリレーでは、最初対戦形式にしてしまったがために、バケツリレーになり切らず、かなりドタバタと大変な騒ぎになってしまった。

本来の目的は、効率的に水を運ぶということだったため、二回目以降からは全員で行った。今回の授業で一番不安な部分でもあったため、ある程度形になってよかったですここは改善する部分が多いと感じた。その後に聞いた子どもたちの感想には、このバケツリレーへの感想が多かったため、楽しんで活動をしていた様子が見られた。



3. 青葉区総合防災訓練について

【意義や目的】

市民生活の安心・安全を確保するために、東日本大震災等の教訓を踏まえ大規模災害から命を守り、円滑な避難所解説・運営、物資の供給、防災意識の普及啓発や「自助」「共助」「公助」それぞれの充実と連携を図ることが必要である。本訓練は、「仙台市青葉区通町地区避難所運営マニュアル」に基づき、避難所解説及び運営の手順を習得するとともに、訓練参加者が体験学習や展示物の見学を行うことによって、地域の防災力の向上を図ることを目的に実施する。

日時 2024年10月19日（土）8：00～11:45

場所 仙台市立通町小学校

内容 町内会が主導して避難活動の一連の流れの確認を行い、その後各ブースに分かれて避難者(住民)が様々な訓練を体験した。小学生は通常授業を受けた後に学年ごとに分かれて防災授業や訓練を行い、最後に保護者と連携した引き渡し訓練が行われた。

活動の詳細

1)ゼミ生

- ・松川、一瀬…避難所の視察、救命救急体験へ参加（補助）
- ・小向、村上、増井…避難所の視察、濃煙体験の補助
- ・芦野、鈴木（和）…避難所の視察（通訳）、防火防災クイズの補助

2)地域の方

- ・避難訓練（避難、居住スペースの作成、簡易トイレの設営など）
- ・各ブース訓練（備蓄物資の確認、災害時給水栓取り扱い訓練、消火訓練、救急救命体験）

3)小学生・保護者

- ・1校時 通常授業（災害対応ドローン飛行見学）
- ・2校時 防災授業（1・2年生…消防車両見学、消防活動用装備体験／3年生…防災講話／4年生…防災授業、初期消火訓練／5・6年生…防災講話）
- ・3校時 学年ごとの訓練（1・2年生…防災クイズ／3年生…濃煙体験／4年生…初期消火訓練、防災授業／5年生…ブラダンパーテーションの組み立て・設置体験／6年生…災害VR体験、ブラダンパーテーションの組み立て・設置体験、テント式プライベートルーム取り扱い訓練）
- ・4校時 保護者と連携して引き渡し訓練

【参加した住民の方と小学生の様子とゼミ生の感想】

町内ごとに区切られたブルーシートのすぐそばに、車いすで参加している高齢の女性がいた。その方には「車椅子の避難者」という役割が与えられており、家の被害状況や同居家族の勤め先などを避難所スタッフに話していた。役目を終えた後にお話を聞くことができた。本訓練を非常に有意義なものだと考えており、避難所スタッフに対しては不自由な身でも

丁寧に対応してくれていると感じている。



一方で、トイレ等の移動時に車いすが通れるほどの動線の太さを確保してほしいとも話していた。参加の目的を尋ねてみると、自分が訓練に参加し改善すべき点と一緒に見つけることで、自分と同じ境遇にいる人が少しでも苦労しないようになってほしいからだとう。長いこと仙台市に住んでいるからの場である。



校舎内では消防署員を講師に招いた防災授業が行われていた。校庭に止められたはしご車や消防車を目の前にした1・2年生の子供たちは興味津々という様子で、ホースの長さや火の中に入っていく怖さについて質問をしていた。

一方、校内でも消防署員が体験型の授業を実施していた。見学させてもらったのは3年生の教室である。児童は消防署での一日の動きのビデオを署員の解説を交えながら視聴していた。視聴後は実際に子供サイズの防火衣を着てみる体験に移ったが、普段着よりはるかに固く重たい服に驚いていた。その後の質疑応答で、防火衣の耐火性や本当に熱くないのかという質問が出たが、着ていても熱は伝わってくるため安全ではないと答えていた

【視察を踏まえ、今後のゼミ活動、将来勤務する学校で取り組みたいこと】

青葉区総合防災訓練の視察や区役所の方とのお話を通して、避難所における学校や教員、児童生徒の役割と避難所運営について考え直す必要があるのではないかと考えた。

なぜなら、有事における学校や教員、児童生徒の動きはかなり限定的になるとえたためだ。区役所の方は「有事の際における学校での避難所運営は行政が中心に行い、教員は子供たちの安全を第一優先に行動をすることが求められる」とお話をされていた。

このお話を聞いた時、確かに、命の危険性があるため児童生徒や教員に無理をさせないことは当たり前のことではあると思ったが、教員や児童生徒は避難所や避難所運営において受動的な存在であってもいいのかという疑問が湧いた。

有事において、教員や児童生徒が活動するのはかなり突発的で偶然性が高い状況に限られる。しかし、そのような場面で活動することができるのにはある程度の下地が必要なのではないだろうか。

過去の事例を見ると、避難や避難所運営において教員や児童生徒が活動している場合が少なからずある。そのような事例を調査し、なぜそのようなことができたのかについて考察することには意味があるのではないか。なぜなら、そのような状況で結果として上手くいった事実には共通する根拠があると考えられるためだ。今後の避難所や避難所運営と学校や教員、児童生徒の役割を考える上で、過去から学ぶことは大いにあると考える。

また、行政や地域と学校が有事においてどのような連携をとるのかということを調査する必要があると考える。なぜなら、どのような連携がとられているのかを知ることで、学校や教員、児童生徒の役割をより明確にすることができるのではないかと考えるためだ。様々環境にある学校における避難所や避難所運営には臨機応変な対応が重要になる。その対応の中には、学校や教員が担うこともあるだろう。

そのため、今後は上記の調査と並行して、行政や地域と学校の連携についての調査と、それらを踏まえた学校や教員、児童生徒の役割とそれに付随する訓練等について調査していくきたい。

【総括】

青葉区総合防災訓練に参加したことで、地域が一体となる防災活動の重要性と、その課題を強く認識した。この訓練の意義としては、市民の生命と安全を守るためにの大規模災害への備えが挙げられる。特に、災害時における「自助」「共助」「公助」を実現するためには、地域、行政、学校が協力することにある。

一方で、学校や教員、児童生徒の役割を改めて検討することの必要性を感じた。一人一人が自分の命を守るために、特に学校現場では教員や児童生徒が避難所運営にどのように関わるべきかを明確にし、積極的に避難訓練・避難所運営に参加することが求められる。今回の視察を通して、行政が主導する避難所運営における学校・教員の対応について、市内各学校で整備が整っているのかどうか疑問に思った。大災害が発災する前に、今一度災害時の学校・地域施設の再確認や各所の果たすべき役割を明確にしておくことが重要だ。

防災活動は単独では成り立たず、多くの機関が協力連携してはじめて効果を発揮する。災害リスクの有無にかかわらず、どの地域でも地域全体の防災力を向上させる必要がある。そのためには「学校」を中心となってできることを、来年度のゼミ活動で考えていきたい。

4. 全体のまとめ

木町通小学校での防災授業では、児童がバケツリレーを体験し、避難所生活での課題や自分たちにできる役割を考える機会を提供した。特に、15分間でわずか16人分の水しか運べなかつたという事実を知り、避難所での生活がいかに困難であるかを具体的に理解するきっかけとなっただろう。また、児童の感想には「自分たち」「役立つ」「できる」といった前向きな言葉が多く含まれ、自分たちが震災時に果たせる役割について前向きに捉えたことがうかがえた。一方で、活動の目的や体験の意図をより強調し、さらに深い学びを引き出す授業設計が必要であったという課題も見つかった。

青葉区総合防災訓練では、地域住民、行政、学校が連携した防災活動の現状を視察し、避難所運営における教員や児童の役割について考える機会を得られた。行政側から「教員は児童の安全を第一に行動する」という説明を受け、教員や学校の役割が命の安全を優先する形で限定的になる一方で、過去の事例では教員や児童が積極的に避難所運営に参加したケースもあることも分かった。このような事例を調査し、学校と行政が連携して柔軟に対応できる

マニュアルの作成や実践が必要であると考える。また、避難所における住民や児童の多様な役割を想定し、より具体的な訓練プログラムを作成することの重要性も明らかになった。本年度の活動を通じて、防災における教育の可能性や地域との協働の重要性を深く実感した。また、避難訓練が誰にとっても前向きな気持ちで取り組むことのできる活動であることがマイナスなイメージの払拭につながることを理解できた。今後は、これらの学びを活かし、行政や地域と連携した防災教育の取り組みをさらに推進し、避難所運営における具体的な課題解決に向けた活動を展開していきたい。

5. 今後のゼミ活動

本年度は、木町通小学校への防災授業と青葉区総合防災訓練への参加が主な活動であり、「子ども」から考える避難所と「地域」から考える避難所をどちらも体験できたことは、大変貴重な経験となった。

私たち避難所運営班が特に力を入れている「避難所」について、バケツリレーを通して児童と共に考え、また児童たちの避難所での活動・役割に対する視野を広げることができた点で、防災授業のやりがいを感じた。児童たちは、子どもができる・子どもだからできる活動を考え出し、多くの「役立つ」「できる」を発見していた。

避難所はやはり誰しもマイナスイメージを持ちやすいが、その構成員である個人個人が避難所という小さな社会の一員という自覚を持つことが大切である。それぞれの「自分」の行動により、避難所の状態をマイナスから脱却させることができるということを、バケツリレーゲームを楽しむ子どもたちの姿を見て再認識し、そしてそれは子どもたちも感じていたのではないかと思う。来年度以降の活動でも小中学校で防災授業をさせていただく機会があれば、何か「ゲーム」形式で防災を考えることができる取り組みを考え、さらには防災の学習指導案作成にも力を入れてみたい。

青葉区総合防災訓練からは、行政、地域、学校の連携が防災のカギになることを学んだ。訓練当日は通町地区の住民の方々だけでなく、消防署、消防団、区役所、市民センターや地域包括支援センターの関係者の方々までも参加されていた。地域住民の方々は避難者対応の仕方、炊き出し、簡易トイレの設置などの避難所運営を再確認することができた。また、通町小学校の児童は消防車両や設備見学、濃煙体験、防災講話など、行政や地域の力を借りてできる体験を行っていた。これらより、学校という場は児童生徒に「命を守る」ことを伝えられる場であること。そして行政や地域と協力することができれば、実際に体験する

活動や防災に対する考え方をより深めることができる「質の高い」防災教育が提供できることを学んだ。「守ってもらう」存在であった小学生が、大人になった際に「自分自身を守り」、他者を「守る」ため、体験的でかつ考えられる防災活動を行うことは必要不可欠だ。

次年度の活動でも引き続き青葉区総合防災訓練へ参加させていただくと共に、行政や地域の力を借りた学校・子どもの防災教育・防災活動を視察したい。加えて、可能であれば学校の災害時マニュアルに目を通し、災害や防災の研究に力を入れていらっしゃる方々の意見も交えながら、マニュアルの知見を深めたい。

6. メンバー一人一人の感想

一瀬辰之介 4年

今年度の活動では、去年の気仙沼歌津中学校での活動よりも都市型の避難訓練や避難所運営活動を学ぶことができた。歌津中では地域住民が訓練に必要なものの支援をしたり、地域の消防団が想定されるトラブルを再現したりと積極的に中学校の訓練に参加していた。今回参加した青葉区の防災訓練では、地域住民同士の関わりを作りに来たというよりは防災について学びに来ているように思った。都市部での特徴だと思うがお隣さんや向かいの家の人のことをよく知らないなどは実体験からも珍しいことではないのだと思う。その地域での住民の関わりを意識した訓練がこれからの時代には大切になってくるように思う。

木町通小学校の防災授業では、直接参加できなかったものの児童の感想から直接体験することの大切さを感じた。児童には震災の時にもエピソードがあったバケツリレーを実際に体験してもらった。感想の中でもその体験について言及が多く、やはり座学で学ぶだけでなく実際に体を動かして体験することで印象に残るのだと感じた。児童に震災当時の記憶はないが、当時のこと少しでも思いをはせてもらえばと思う。

私が3.11ゼミナールに参加して3年ほどだがこのゼミでは、多くのことを学ばせてもらった。当時小学2年生の私にとって震災は非日常体験で怖かったな、程度の思い出だが、当時の大人や子供がどのように感じていたか、何を体験したかをこのゼミ活動で学ぶことができた。被災した方々との出会いも大きな体験だったと思う。

特に能登のボランティアが私としては印象に残っている。震災後数か月の現場の状況や被災者の現状、気持ちを直に感じられたのは大きな経験だった。震災のことを知りたい、伝えたいと思う仲間と出会えたことも今後の人生にとって大きな財産になると思う。そんな機会をくれた武田先生には感謝の気持ちでいっぱいだ。ここでの体験を生かして来春から教員としてできることをしていきたい。

松川凜香 4年

今年度は、青葉区の防災訓練に参加して学校視点ではなく、地域視点での活動を行ったり、木町通小での防災授業を行ったりするなど、今までとは違う視点をもって活動をすることができ、思考の幅が広がったように感じる。特に防災授業では、普段は中学生とかかわることが多いこともあり、小学生から想像を超える意見が出てきたことに驚いた。東日本大震災の後に生まれてきた児童たちが災害についてどのように学んできて、どのような印象を抱いているのかがわからなかつたが、避難所に関してトラブルや役割を自分で考えることができたり、自分にできることは何かを考えたりする姿を見て小学生の可能性を感じた。

昨年度は南三陸町の歌津中学校での避難所運営活動を視察し、中学生の可能性を深く感じたが、中学生だけでなく小学生にもできることがある。普段から教員などの大人が守るべき時には守りながら、その中で児童のできるところを信じていくことが大切なのだと感じた。来年度からもこの視点は忘れず、ここで学んだことを生かしてがんばりたい。

吉村響華 4年

大学生活を振り返り、やり残したことはないかと考えたとき、真っ先に思い浮かんだのが3.11ゼミへの参加である。友人から活動の様子を聞き興味を持っており、後悔したくないという思いから参加を決意した。その結果、一年間という短い期間ではあったが、多くの学びを得ることができた。

私は木町通小学校での防災授業に参加した。児童との関わりを通じて特に強く感じたのは、児童自身が「考える」ことの重要性である。避難所での役割分担を話し合ったり、バケツリレーを行ったりする活動を通じて、児童が地震や避難所に対して抱いていた思いを表現し、さらに考えを深めるきっかけになったと感じている。現在、児童は新聞やSNSなど様々な媒体を通じて多くの情報を得ている。しかし、それらの情報が常に正しいとは限らない。だからこそ、児童同士が共に考え、意見を深め合い、考えを再構成していく機会を意図的に作ることが重要であると学んだ。

私は4月から、県外の専門職大学院に進学する予定である。様々な背景及び認識を持つ児童生徒との出会いが待っている。目の前の児童生徒が何を知りたいのか、何を求めているのかを探り、防災教育の在り方を追求し続けたいと考えている。最後に、一年間ともに活動した仲間やご指導いただいた武田先生に深く感謝の意を表したい。

和田穂乃香 4年

今年度は思ったように活動に参加できず、参加できた活動は木町通小学校での授業実践のみとなってしまった。実習でも4時間続けての授業は行ていなかったため、正直その日初めて会う子どもたちに対して授業を行い切れるかとても不安だった。実際にやってみると、とても楽しそうに子どもたちが授業に参加してくれていてうれしくなった。

今回の授業は、沢山「もしも」について考えることが多かったのだが、周りと意見を好感しながら一生懸命に考えている姿が印象的だった。宮城県に住んでいるとはいえ、子どもたちが生まれたのは東日本大震災の後で、宮城で起こった災害の一つという自分ごとではなく歴史の一幕という印象を持っていると感じた。そのような子どもたちにどのように災害を自分ごとと思わせることができるかという点は、授業を作る際とても苦労をした。大学生が想像していたよりも柔軟でびっくりするような大人な意見や考えもあったため、子どもたちのそのような感性を大切にしていくことができたら、避難所も大きく変えられるのではないかと感じた。

4年間細々と参加してきたこの311ゼミナールは、これまでの人生で大きな災害を経験していない私にとってとても貴重で有意義なものだった。ここに在籍していなかったら、震災遺構には行くことはなかったと思うし、こんなに防災について考えることもなく、新しい人たちに出会うこともなかったと思う。貴重な機会を沢山提供してくださった武田先生には感謝の気持ちでいっぱいだ。来年度からは、小学校の教員としてここで得た防災の知識をふんだんに活用して子ども達と関わっていきたい。

芦野陽南 2年

青葉区総合防災訓練に参加したが、実際に地域の方々が避難してきて開設される避難所の様子を見るのは初めてだった。また、私は、今回の防災訓練の打ち合わせの場にも参加させていただく機会があったので、防災訓練当日の表立って見えている部分だけではなく、その背景にあるそれぞれの活動に込められた目的や意味、地域や行政の方々、学校の先生方の防災に対する思い、考えなどの部分も知ることができたと感じている。

私は特に、外国人の方々の避難所での動き方について観察しながら一緒に行動させていただったので、外国人向けの支援の仕方などについてとても考えさせられた機会だった。その観察を通して、実際の避難所には、通訳として外国人の方々とコミュニケーションをとることができるのはどれほどいるのだろうかと疑問に思った。一方で、外国人住民の方々の中でも、日本語がどれくらい話せるのかという点においては違いが出てくると考えられるため、日本語が堪能な方が通訳として力を貸していただけるのであれば、外国人住民の方々の避難もしやすくなるのではないかと思った。同時に、今回の防災訓練においても、日本語

が少し理解できる、話すことができる外国人の方々に対しては、地域の方が簡単な英単語を使いながらコミュニケーションをとっている様子が見られ、日本人側のコミュニケーションをとろうとする姿勢や態度がとても大切なのだと感じた。

また、そもそも外国人住民の方々に対して、「避難所」という場所があることはどれほど周知されているのだろうかということも疑問として残った。災害が起きたときには避難所という場所に避難する、ということや実際の避難場所を把握しているのかどうかで、実際に災害が起きてしまったときの行動が変わってくるとともに、命に関わる重要な事項であると考えた。その対策として、行政の方々からの情報発信や支援が大切であるとともに、我々のような防災に関する団体やボランティア団体が情報を提供したり支援を行ったりすることも大きな力になると思った。

今年の活動を通して、外国人の方々の視点に立つことを経験したので、自分が外国に行って災害に遭ってしまったときの不安などを実感した。そのため、外国人向けの支援の仕方についてさらに考えを深めていきたいと感じた。

遠藤胡羽 2年

今年の活動はなかなか都合がつかず、参加できた大きな活動は防災運動会のみであったが、この活動は自分がもつ防災訓練への考え方を教えてくれた大切な活動であったを感じている。昨年深く関わらせていただいた歌津中学校の防災活動も踏まえると、防災に対する活動は本番のように常に緊張感をもって行うことが基本になるという考えをもっていた。しかし、今回の活動は「運動会」と組み合わせたもので楽しい活動が多く、参加者の様子を見ていても笑顔がとても印象的であった。所々ゲーム的要素も強かったため、楽しい中にも緊張感も持ちつつ行うことができた。堅苦しくなるのではなく、柔軟性をもって実践的に過去の災害から学ぶ防災訓練は、学校でも十分に活かしていきたいことであると感じた。

また、地域と連携して防災に関する活動を行っていくことも重要だと再認識した。昨年も感じたことではあるが、地域の人と日頃から直接顔を合わせて一緒に防災に取り組んでいくこと、大きな活動ではなくても、会ったら挨拶をするなどの基本的なことを積み重ねて、いざとなったときに支え合えるベースをつくっていくことが大切だと感じた。今回の活動からも学んだように避難所運営に関しても学校だけなど狭い範囲で完結するものではなく、地域で一緒に高めていくことができるような防災活動を行うためには、日頃からどのような活動をしていけばよいのかもっと考えを深めていきたい。

小向翔大 2年

今年は、青葉区総合防災訓練に参加することを通して、避難所運営について学校からの視点だけではなく行政や地域からの視点を得ることができ、避難所における学校や教員、児童生徒の立ち位置について考え直すきっかけになった。

学校や教員、児童生徒は、避難所においては守られる側であることが一般であることが多い。しかし、有事の際の初動や予想だにしていない事態が起きた時に瞬時に動ける準備をしておく必要はあるのではないかと考える。そのような準備を行うためにも、日々の訓練や避難における体制の見直しやマニュアル作りなどはかなり大切になる活動になるのではないかと考える。加えて、学校は学校だけで完結するのではなく、地域や行政ともっと密接になって避難所運営について考える必要があると考える。

このような取り組みを通して、学校と行政などの連携がとれ、それぞれの役割が明確になることで、より減災に繋がるのではないかと考える。来年は、この点について調査し次に繋げられるようにしたいと思う。

鈴木和香 2年

前年度はグループに所属しておらず視察のみ参加していましたが、その際に避難所運営に興味を持ったため今年度避難所運営班に所属を決めました。実際に参加することができた班での活動は、青葉区総合防災訓練のみであったが学びが多いものでした。

役割としては日本語での避難に困難がある避難者への通訳でしたが、実際に避難所の運営をともに行うとなると簡単な英語でも伝えることが難しいと感じることが多くあることに気づきました。反対に今まで「日本語を理解できる私たちがしっかりと情報を伝えなければいけない」という考えでしたが、避難者の中にはやさしい日本語であれば理解できる方もいて、やさしい日本語で伝えたことを英語でほかの避難者の方に伝える様子があり、ハードルが低くなったように感じました。

避難所の運営に関して、今回学んだ新たな視点を踏まえて、教員の立場だったら何ができるのか、避難者の立場だったら何ができるのかということを具体的に考えていくたいと思いました。

増井美羽 2年

今年度ゼミの班活動が始まるにあたり、何か「避難所」を視察できる機会がないか調べていたところで「青葉区総合防災訓練」を知った。青葉区役所にその旨を尋ねたところ、担当の区民生活課・佐藤さんが私たちの視察を快く引き受けてくださり、今回の活動が叶った。

佐藤さんをはじめとする青葉区役所区民生活課の方々、通町地区住民の方々、通町小学校関係者の方々に感謝を伝えたい。

視察からは、学校現場と行政、地域の連携が緊急時のみならず日常的に欠かせないことを痛感した。学校現場は子どもたち、ひいては私たち一人一人のために、行政・地域と協力して防災授業、防災活動の機会を考えることが重要であることを学んだ。座学のみならず、児童生徒が自ら頭や身体を動かして体験しながら防災に向き合うことの必要性を学んでもらうとともに、防災を通して「いのち」の尊さを再考してもらいたい。

また、被災地視察や次世代塾への参加を通して、今後はひとつひとつの「街」の魅力を自らの目で見つけてみたいと思った。大川伝承の会・佐藤さんより、震災前は大川地区が活気にあふれていたこと、そして大川小学校は「未来を拓く」場所であることを教えていただいた。国内にあるどの街や地域にも、その場所の特徴や魅力がある。自分で足を踏み入れて、それらを発見してみたい。そして、人と人とのつながりを大切にし、街や地域に愛着を持つ児童生徒を育成することのできる教員を目指したい。

村上陽亮 2年

2024年度のゼミ活動は昨年以上に活動的だった。青葉区防災訓練への参加や木町通小学校での防災授業の準備など多くのことに関わらせてもらった。特に、指導案の作成を担当した防災授業の様子を聞くと多くの児童が避難所についての知見を深め、防災意識を持っていただけたようで、本活動に貢献できたことをうれしく思う。指導案では、「学び合い」を大切にし、グループ内での相互の意見交換を多く実践する内容にした。

防災教育を担う側になって「自分の命を守る方法を学ぶ」ことは当然だが、それと矛盾するように「自分自身だけで生き残る」ことの難しさにも気付かされる。発災時は自分の命を守ることが優先されるが、地域住民が避難所に集まって支援を待つ時になるときは、他人と同じ環境で過ごさなければならなくなる。ライフラインが絶たれた中でトイレや食料も準備しなければならない。その中で互いに協力しないで生活できるとは思えない。

だからこそ、発災前の防災教育には「地域連携」が必要不可欠になる。昨年度の歌津中の避難所運営活動で見られた生徒の「郷土愛」の強さからも分かるように、地域社会と強力に結びついた防災イベントが、人口の減少で衰退していく農村部や人との関わり合いが薄い都市部の両方でコミュニティの結束を高めることに繋げているのだと思う。

能登地震から1年がたった。正月、経験したことのない波のようなあの揺れは、あまりに衝撃的で今でも思い出す。多くの人が協力し復興が進められているが、がれきが未だ撤去さ

れていない地域もある。地元のために私にできることは何かを自問しながら、今後のゼミ活動でも知見を深めていきたい。

小野寺夏実 1年

今年度の活動は、都合がつかず参加することができなかつたが、私が中学生の時に経験した避難所運営訓練と班員の報告を比較して学べたことが多くあった。私の地元は被災地で、防災に対する意識は強いと自負している。しかし、最近は震災を経験していない、知らない子供たちが増え防災に対するマイナスなイメージを持っている人が多いと感じている。今回の木町通小学校防災授業は、そんな小学生たちが前向きな気持ちで自分のできることを考え、取り組むことができていた。

青葉区の防災訓練では、車いすに乗っている方が恩返しや未来のために活動に参加したということで、今前向きに取り組むこととは別に、未来のための防災訓練ということを改めて感じることができた。私の地元でも避難訓練を行ったが、家族から話を聞くと、地域の方の参加者の減少や小学生の意識の低さについて課題があることがわかった。仙台市の二つの活動のように前向きに参加する人を増やすために、大学生として何ができるのか、地元の中学校や震災遺構の方と協力してできることはないか、自分から行動を起こしていきたいと思うことができた。また、将来的に教員になった際に、児童にどのような防災の授業や活動を提供できるのか、というヒントを得ることができたので、今後未来を生きるすべての人たためになるような環境整備ができる教員になりたいと思った。

来年度も自分の地域と比較して活動に取り組んでいきたい。また、中学生の取り組んでいた時の視点と教員養成という視点から避難所運営について考えていき、未来の命を守るために前向きに行動していきたい。

根本蒼唯 1年

今年度、初めての311ゼミでの一年間だったが、大変充実した一年にすることができた。しかし、避難所運営班としての活動へあまり参加することができず後悔が大きいです。来年度以降の活動に生かすためにみなさんのレポートやお話を伺いながら、個人的にまとめていきたいと思う。また、別班の活動として11月には南あわじ防災訓練に参加させていただく機会があった。その際に、初めて来た見知らぬ土地で避難訓練をする不安を強く感じた。また、体育館では避難所の運営を疑似作成していて、大変貴重な経験になった。

これらの経験で学んだのは、実際に足を運び、体験しないとわからないことがたくさんあるということです。だからこそ、来年度は避難所運営班としての活動にさらに参加したいし、自主的にも様々な場に顔を出していきたい。そして、実際に体験しないと分からず、細かい問題点や参加者の感情を汲み取り、実際にそのような状況になった時に、先導を取り周りを引っ張っていきたい。そのためにも自信をもって発言できるよう、知識・経験を蓄えていきます。

村口万結 1年

2024年は私にとって1年目のゼミ活動ということで、今までにない経験を積むことができ、世界が広がった年であった。私は防災・減災運動会、大川小・戸倉小視察、そしてこの避難所運営班で活動した木町通小学校の防災授業に参加した。

木町通小学校の防災授業では、バケツリレーの授業案の作成（補助）と授業の補助を行った。授業案の作成については、4年生の先輩方が作成したものに武田先生のお言葉を取り入れつつ、2年生の村上さんと試行錯誤しながら加除修正を行った。授業案作成は初めてで、今回の活動を通して作成の仕方や配慮するべき点を学ぶことができ、良い経験となった。

参加当日については、避難所運営班の班員が私以外は4年生の先輩方であり、授業の作り方や子どもたちへの対応、授業補助や授業記録の作成の仕方に加え、教員としてあるべき人格的部分も、とてもたくさんのこと学ぶことができた。

避難所はマイナスなイメージがつきやすいが、避難所という小さな社会の構成員一人一人の行動により、避難所の状態をマイナスから脱却させることができるということを、バケツリレーゲームを楽しむ子どもたちの姿を見て再認識し、避難所状況のふり幅の広さを感じた。避難所運営の仕方に加え、普段から備えをしておくことにより、心の余裕が生まれ人と人のトラブル減少に繋がるのではないかとも考えたため、個人の備えはもちろん、避難所を設立する施設での備えもとても大切になってくると思った。

この一年間311ゼミで活動して、一年前の自分では全く知らなかったこと、経験していないかったこと、考えていなかったことに触れ、消化することができ、とても充実した一年間だったと思う。この経験を大切にしながら、これからも震災・防災に向き合っていきたい。

【参考資料】木町通小学校防災授業・指導案

授業のねらい

- ・災害時の避難について、避難した後の状況、特に身を寄せる避難所の様子に理解を深める。
- ・理解に基づき、自分たちができるを考え、一部の作業を実践してみる。

授業の流れ（指導案）

段階	授業の流れ	予想される児童の姿	指導上の配慮事項
導入 15分	◎導入 <ul style="list-style-type: none">・これはどこ？（学校の体育館の写真を提示）・こっちは？（避難所となっている体育館の写真を提示）・これは同じ場所？・どんなところが違う？・何があるかな？ ☆避難をした後に生活をする避難所について考えよう。	<ul style="list-style-type: none">・学校の体育館・避難所？・同じ場所だけど。。。違う。・・	<ul style="list-style-type: none">・普段の体育館の写真・避難所になった体育館の写真の提示
展開 20分	◎展開 <ul style="list-style-type: none">・実際に避難所に避難したことがある人？・（いた場合）どんな生活だった？・どんな気持ちだった？・どんな時に避難所に避難するかな？ (ある程度子どもたちから出してもらう。そのあと、今年の災害について触れる際、震災の写真が出る	<ul style="list-style-type: none">・したことない・水害の時に避難した。・ニュースで見たことがあるよ。・あまり知らない	板書等はせず、口頭で確認する。

	<p>から、見のがしんどい人は、伏せててもいいからねと声掛け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所ってどんなイメージかな？ <p>1人でトラブルについて考える</p> <p>グループ活動</p> <p>①避難所で起こるトラブルについて話し合う。</p> <p>(一人で3分グループ7分)</p> <p>トラブルに関する共有</p> <p>子どもたちが思いつかなそうなのを2～3個用意。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・寒い ・汚い ・能登半島 	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋に書かせてまとめる ・いろいろな人がいるよね～(ぼそぼそヒント) ・トラブルが理解できる写真をPowerPointで用意しておく。
導入 終末 10 分	<p>②避難所にはどんな役割が必要かについての話し合い。</p> <p>(1人で3分グループ7分)</p> <p>役割についての共有</p> <p>子どもたちが思いつかなそうなのを2～3個用意。</p>		①と同様に
導入 終末	<p>③小中学生でもできることは何があるかな？</p> <p>(1人で3分グループで10分)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・より深く考えさせるためにいつ、どこで、どのようにを軸に考えさせる。

展開 終末			
導入 展開 終末	<p>④実際にバケツリレーをしてみる (体育館スタート)</p> <p>・「なんで飲み水以外の水が必要な のかな？」</p> <p>・(体育館のトイレに連れて行っ て)</p> <p>断水時にトイレが流れる？</p> <p>「トイレの水を流すのにどれくら いの水が必要かな？」</p> <p>A. 5 L</p> <p>※5Lとはどれくらい？</p> <p>→实物見せる or 重さを体験してみ る (ペットボトルを持たせる)</p> <p>(バケツだと、1杯で10L！)</p> <p>どう対処する？</p> <p>子供たちに考えさせる。</p>	<p>→掃除のた め。</p> <p>→流れない</p> <p>(リレー①の後でもいいと思 うが、福祉トイレの中でやる と狭いので、ここでやるのが 良いかも。)</p> <p>→飲み水、雨 水を…</p> <p>どこから 水を 持 ってきて流す プールから 持ってく る！！</p>	

	<p>・「プールから水を効率的に運ぶにはどういたらいいかな？」</p> <p>→一人で長い距離を運べないよね/水も沢山こぼしちゃうかもしれないよね</p> <p>「じゃあ、やってみようか！」</p> <p>・15人ずつのグループで水をバケツリレー①で運ばせる</p> <p>福祉トイレにて、どうやって流すかを想像させてみる。</p> <p>流し方も言及する</p> <p>→「バケツの置き場所は？」</p> <p>…バケツは個室内に1つは置いておかなきゃいけないよね？/男女別トイレでは、個室は福祉トイレより狭いけど、どこに置けばよいかな？</p> <p>→「一回だけで大丈夫かな？もっと水を使わない？」</p>	<p>→ホースを使う バケツで運ぶ！ 走って運ぶ 一人で沢山持つ →バケツリレー！ 考える時間をとる。 →勢いよく流す！</p>	<p>【ここまで10分】</p> <p>トイレは、全員が入れるスペースなのか微妙なので、全員がトイレに入れなくとも説明を聞けるよう、静かにさせる。 (無理なら15人ずつ入室か、男女トイレの活用も) 指導者が説明中に説明に使う最低限のペットボトルを残して、授業補助者が回収し、ステージに戻す。</p> <p>【ここまで20分】</p> <p>あまりにも効率が悪そうであれば、「こうしたらよいよね」と教えてあげる。</p> <p>【ここまで30分】</p>
--	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・別シチュエーション（夜・また別の日という体で）バケツリレー②をやってみる。 →さっきの運び方での反省点も生かして、もう一度やってみよう ・時間が余ればバケツリレー③を行う <p>体育館（ステージ前）にて ◎授業内でのまとめ、総括振り返りをする。発言させてみる。</p>	<p>→日がたったら、水はなくなる。（掃除でも使うし…。）</p>	<p>(教室に戻ると時間が厳しそうなので、体育館での振り返りにした。) 【ここまで 40 分】 (5 分のバッファ)</p>
--	-----------------------------------	--

・児童の反応

教師の発言	児童の実際の姿
<p>◎導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これはどこ？（学校の体育館の写真を提示） ・こっちは？（避難所となっている体育館の写真を提示） <p>☆避難をした後に生活をする避難所について考えよう。</p>	<p>→体育館</p>
<p>◎展開</p>	<p>(避難をしたことがある人は 0 人)</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・実際に避難所に避難したことがある人？ ・どんな時に避難所に避難するかな？ ・やばいときってどんなとき？ ・今年、3回避難所ができるような大きな災害があったんだけど、知っている？ ・一年で2回も避難をするような災害を経験したんだね。 ・能登地域でもう一回あったよね？ ・そうだね、南海トラフもあるよね。← ・災害があるときに避難する避難所ってどんなイメージかな？ <p>○1人でトラブルについて考えよう。</p>	<p>→・家に住めなくなったとき</p> <p>・津波</p> <p>・地震</p> <p>・洪水</p> <p>・やばいとき</p> <p>→命が危ないって思ったとき。</p> <p>児童 M</p> <p>・能登半島</p> <p>・沖縄の津波</p> <p>(アラームが鳴った)</p> <p>・山形県 大雨</p> <p>(買い物をしているときにお店にアラートがなったが、誰も避難しなかった</p> <p>→児童 M うん、怖かった。</p> <p>→大雨</p> <p>南海トラフ</p> <p>→・窮屈</p> <p>・自由が無い</p> <p>・お風呂にはいれない</p> <p>・服に着替えられない</p> <p>・食べ物、水に困る</p> <p>・トラブルがある</p> <p>・トイレに困る</p>
---	--

(考えた後ヒントとして写真を見せながら)

- ・色々な人がいるね。
- ・色々な人ってどんな人？
- ・外国人の人もいる
- ・障害があるひとも
- ・元気に動けるひとだけではないよね
- ・ペット買ってる人いる？→大切な家族どうしようね

・震災の写真が出てくるので、見たくない人は顔を伏せてね。

・東日本大震災は？

・何年前かな？

・福島県は？

・能登半島地震は？

・よく出たね←

地震と火災だね。

○トラブルをたくさん、考えられるだけ考え方暑い時期は？どうだろうね。

【グループ活動】

①避難所で起こるトラブルについて話し合う。

(一人で3分グループ7分)

・慣れているから大丈夫

→地震と津波

→13年前

→原発

→地震と火災

阪神淡路大震災

【4班】

これ色々な班で出てたよね。←

プライバシーという言葉がでてきたね。←

障害者や高齢者ははじめて出てきたね。←

今災害があったらストーブとか取り合いにな
っちゃうね。→

- ・実際の写真を見せます。
- ・大人でも喧嘩しちゃうよね。「いつもと違う
生活」だから普段は気にならないことでイラ
イラしちゃうね。
- ・片平町小学校の写真。

- ・知らない人と同じような生活をしない
とだめ

- ・ご飯の取り合い

【6班】

- ・プライバシーが丸見えで、ストレスに
なる。

- ・食料不足

【1班】

- ・障害者や高齢者が生活しにくい。

児童 M：あー、めっちゃ勉強になる。

【3班】

- ・小さい子が生活しにくい。

【2班】

- ・停電する。

【5班】

- ・石油ストーブは熱があまり広がらない
から寒い。

	<p>・おばあさんこっち見てる 児童 M これって体育館? 暗い 電気無いときつくね。</p>
<p>②避難所にはどんな役割が必要かについての話し合い。 (1人で3分グループ7分)</p> <p>○この時間、なにやるのか覚えている？</p> <p>○役割についての共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この学校にも委員会や係活動などの役割があるよね。避難所でも、それぞれが役割をもって。どうしたら幸せに、ストレスなく生活できるのかなということについて話していくうと思います。 <p>○みんなが書いてくれたトラブルを解決するためには？トラブルと比較して書いていってみましょう</p> <p>[活動後]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さっきよりもいっぱい意見があがったね。 <p>【3班】</p> <p>【3班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい子の面倒を見る 	

一人で生活できない人を助けるひと、喧嘩を止める人とか、リーダーになる人が必要だよって言ってくれました。←

【4班】

この班はグループに分けていました。何個のグループがあった？すごいね。←

「この考え方大事だから覚えておいてね。わかるって大事だから覚えておいてね。」

【6班】

大きい災害が起こると、大人や大学生がボランティアに来てくれます。ボランティアに来てくれた人たちを管理する人も必要になります。よく気づけたね。←

【1班】

管理をする人を入れた理由は何？←

病院の先生って初めてできたね。飲み水と生活用水って違うの？←

【4班】

・役割の担い手を大人、子ども、その他の役割、ペット &赤ちゃんの4つの視点から考察。

→わかる。

【6班】

- ・災害のボランティア
- ・食料を分けるひと

【1班】

- ・ごみを捨てる人
- ・高齢者や障害者のお手伝いをする人
- ・子どものお世話をする人
- ・水をくむ人、管理する人

児童A トイレとか生活に使うかもしれない。ちゃんと人数分管理しないと、すぐに水が無くなってしまって、水分がなくなってしまうので管理した方がいいと思いました。

【2班】

- ・子どものお世話ができる人
- ・飲み水と生活用水を分けて運んでくる。

【5班】

みんな、楽しくないっていってたから楽しむために新聞とかイベントとか考えてくれたね。

[大学生から気になるポイント]

村口：仕切り

この避難所の写真って仕切りある？

福岡：けんかの止め方（けんかになる前に止めるのか、どうやって止める？）

松川：歌

○実際の避難所を見よう。

和田：本部がますあります。避難所に入ってきた人・モノを管理します。ご飯の提供。お片付け。心のケア等に言及。このような組織図があります。

→ちがう。

児童Mだって、生活用水は汚くてもいいんだよ。

【5班】

- ・イベント
- ・子ども新聞
- ・リーダー
- ・段ボールで仕切りを作る人

→あるところはある。ないところはない。

→ベット。暖かい。

武田先生

段ボールってどうやって使う？

- ・ベット
- ・仕切り

すぐ使えるか？誰かが組み立てないとだめだ
な。学校にもあるぞ。

テレビとか取材にこないか？誰かが係になっ
て受け付けないとだめだよね。苦しんでいる
人が聞かれたら嫌だよな

和田：段ボールトイレ見たことあるのかな？

木町通小の先生

学校にあるんだよ。商品名が「どーんとこ
い」。組み立てるとトイレになる。仕切りもあ
るんだよ。

和田：学校のこと誰が一番知ってる？避難所
を先生が任されたときにどうするのかなって
考えているグループです。

マンホールトイレって知ってる？

お金がかかる、大変

簡易トイレ。運動会とかお祭りで見たことな
いかな？

③小中学生でもできることは何があるかな？
(1人で3分グループで10分)

→使えない。

→えー。 そうなの？

→校長先生、教頭先生、児童

→マンホールのトイレ？

→見たことある。

・助けるのは病気の人だけ？

→ちがう。けがも。

日本語通じる人だけかな？

→ちがう。外国人もいる。

妊婦さん、生まれたての赤ちゃんもいるかも
しれない。

→妊婦さん

観光で来ているひとがいるよね。

→仙台？観光？そうかな。

児童 M は沖縄にいたんでしょ。そういう風に
土地勘が無い人もいるかもしれないよね。

英語。少しだら。

○今までまとめたものを見て、「これ自分にも
できるっていうことを書いていこう」

瓦礫とかあるからあんまり外でない方が
いいよね。買い出しとか行かないで自給
自足した方がいいよ。

あいさつ、ありがとうって言えるかな。

荷物って何かな。

○すき間を開けてグループで書いてね

【2班】

○「いつ、どこで、どのように」を考えて横
に書いてください。

- ・いつでもどこでも元気な挨拶
- ・歌を歌う
- ・外国人を通訳
- ・バケツリレー

【4班】

- ・掃除
- ・ご飯を運ぶ、わける
- ・大人の手伝いをする

ご飯の中でも色々な役割があるから分けて書いてくれました←

挨拶もだし、みんなが笑顔だと嬉しくなるよね←

自分の笑顔の力をわかっているね。←

調理をするって新しいね。←

小学生でも、できることがたくさんあるってことがわかりました。何かがあった時に、助けてあげられるといいと思います。

実際の避難所でも掃除をしています。あとは、小さい子どもとトランプをしています。

【3班】

- ・いつでもどこでもピエロのように挨拶をする

【6班】

- ・子ども新聞
- ・学校や避難所の案内をする。学校のことが分からぬひとが来た時
- ・何があったら笑顔で対応する。みんなが暗い顔でいるときにこそ、笑顔でいる

【1班】

- ・イベントや行事をする。昼に体育館で楽しませる。
- ・節水（朝昼晩、みんなできる。）

【5班】

- ・みんなで円になって前の人の肩をもむ。
- ・調理をする。

遠くのことから、家族の役割として水運び、3kgの水を運んでいる男の子が東日本大震災のときにいました。学校生活で、「何ができるのかな」って何ができるか考えてみてください。

クイズ ③12Lが約半数少ないと思う人？

お水止まっているんだけど、どこから水運ぶ？断水しています。

じゃあその水をどうやって運んだらいいかな？←

4時間目は体育館に行って実際に体験してもらいます。

④実際にバケツリレーをしてみる（体育館スタート）

6リットルって重いの知ってる？

まずは体育館のトイレを見学してみよう。

3kgか。

(答えを見て)

②6Lは多いと思う人が過半数。

川

海

広瀬川

マンホール

プール

知らない

ここに避難してきた人たちが、交代でトイレを使います。ということは水がたくさん必要だよね。

みんなで競争してもらいます。

バケツリレーの良いところは？

お水持って走ったらヘロヘロになるよね。たくさんお水が必要なときは、なるべく動かないのがいいよね。

では実際にやってみましょう。間隔も任せるね。

競争です、よーいスタート

[バケツリレー①後]

みんな今だと水こぼれるよね。次はみんなで協力して、運びたいと思います。一列になってください。水をこぼさずにトイレに運ぶことを目的にして運びます。

何人分の水だったの？ このクラスの半分くらいしかトイレできないね。

臭くなる、使えなくなる、不衛生、病期になる、汚くなる、嫌だな

バケツリレーだ。知ってる

早い、疲れない

みんなもっと離れていいよ。この横幅ね。もうちょっと詰めて。

[バケツリレー①中]

バケツもリレーしろ。そっちずるい。重いわ。

[バケツリレー②中]

お前水こぼれるぞ。水飛び散るじゃん。
○○はい！（渡すときに掛け声）

[バケツリレー②後]

今まで 16 人分のトイレだって！

少しでも効率よく運ぶためにはどうしたらい
い？水を大切にしないとなって思ったと思
います。

武田先生

1日に何回くらいやればいいかな？一回じゃ
済まないんだよ。3回？5回？10回？大変だ
よね。

3回？毎日？ずっと？